## 常陸大宮市史編さんだより Vol.52



## 久慈川・那珂川を行き交う舟や物資

常陸大宮市は北に久慈川、南に那珂川が流れ、江戸時代には幕府の領地から江戸に運ばれる米や、紙、こんにゃく、木材などのさまざまな物資が運ばれていたと考えられます。陸上輸送に比べ、低コストで大量の荷物を江戸や野州(現在の栃木県)と取引できたため、舟を使った物資輸送が発達しました。

川沿いには河岸(川岸)があり、舟や陸送の手配 や荷物の積替え・保管にあたりました。このうち現 在の常陸大宮市域では、久慈川には、上流から山方、 高渡(高和田)、上岩瀬、那珂川には野田、長倉、 野口、三美、小野、小場に河岸が設けられていました。 小宮山楓軒によって編さんされた「水府志料」には、 部垂村(旧大宮町)について、「東は川向にて小倉、 富岡村也、此所に渡場あり(中略)久慈川、横瀬の 地より来りて、宇留野村に流る、此所に板、たばこ、 其外諸品荷受のかし (河岸) あり、此所より小場、 小野等のかしへ馬付にて送る」とあり、久慈川を下っ てきた荷物が馬の背に付け替えられ、陸路で那珂川 の河岸へと運ばれていたことがわかります。小野村 の四倉河岸 (下河岸) の河岸守を務めた四倉家に残 されている荷物の預り証文からも、西金村や袋田村 (大子町) からの杉板が、高渡河岸から小野河岸へ と運ばれたことがわかります。

昔の久慈川では、高瀬舟とよばれる小舟が、魚の 干物や塩漬けなどを載せて各河岸へと立ち寄り、上



▲四倉家文書No.43「板預り証文之事」



大内 正臣 氏 近代支部会協力員 (茨城県立真壁高校教諭)

りには舟に帆を張り、流れが急な場所では両岸に 2 ~ 3 名ずつ降りて引き綱で舟を引いたと言われています。高瀬舟や小鵜飼舟など、大小さまざまな舟が行き交ったほか、材木を組んだ筏が流れる風景が見られたことでしょう。幕府の城米や藩の特産物の輸送のほか、人々の暮らしを支えた那珂川と久慈川の水運ですが、明治~大正期に鉄道輸送が始まると、徐々に衰退していったようです。



▲大桂大橋と小野河岸付近

常陸大宮市内にはさまざまな資料が残され、その 保存や活用を目指して歴史民俗資料館や文書館など の公的機関をはじめ、郷土史クラブの皆さんなどが 積極的に活動しています。新しい市史では、こうし た活動の成果も活かしつつ、江戸時代の商品流通の 様子を地域の資料を用いて明らかにしていきたいと 考えています。

## ■問い合わせ■

文化スポーツ課

文化・スポーツグループ ☎52-1111 (内線344)